

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受付日	一般名	患者性別	年齢	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	献血者再献血率	同一献血者製剤確保率	同一献血者製剤使用率	感染症等転帰	転帰	献血者経過及の場合の献血者保管抗体(抗原、抗体、NAT)	献血者経過及の場合の献血者の検査種
3-07082	A-07000039	2007/6/4	2007/6/15	人血小坂濃厚液(放射線照射) 人血小坂濃厚液 人血小坂濃厚液+HLA(放射線照射) 人血球濃厚液 人血球濃厚液(放射線照射)	男	50	血液腫瘍	C型肝炎	06/01~12/06/01-04 06/02~11/06/02-06 06/04~06/06/01	HCV-Ab(-) (06/01) HCV-Ab(-) (06/09) HCV-RNA(+) (07/05) HCV-RNA(+) (07/05)	HCV-RNA(-) (06/01) HCV-Ab(-) (06/09) HCV-RNA(+) (07/05) HCV-Ab(-) (07/05)	陰性(輸血開始後) 陽性(輸血後)	保管抗体41本全て HCV-RNA(-) (06/05-06) 健血0/1 07/07-08/06/06 733-ト (06/06)		215単位 50単位 20単位 20単位 6単位	32/41	38本の原料血漿、8本の新鮮凍結血漿を製造。原料血漿は3本確保済み。	原料血漿は30本使用済み。新鮮凍結血漿は全て医療機関へ供給済み。	重篤	未回復			
3-07083	A-07000040	2007/6/4	2007/6/15	新鮮凍結人血漿 人血球濃厚液	男	50	動脈瘤	C型肝炎	06/05~07/06/05-07	HCVコア抗原(-) (06/05) HCV-Ab(-) (06/05) HCV-RNA(-) (06/05)	HCV-Ab(-) (06/08) HCV-RNA(+) (07/04) HCV-Ab(-) (07/04) HCV-RNA(+) (07/06)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管抗体23本全て HCV-RNA(-) (07/06)		37単位 10単位	0/22	19本の原料血漿、4本の新鮮凍結血漿、16本の赤血球MAPを製造。	原料血漿は全て使用済み。新鮮凍結血漿は、全結血漿、16本の赤血球MAPは全て医療機関へ供給済み。	重篤	不明			

輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性

3-07047	A-07000023	2007/5/8	2007/5/21	新鮮凍結人血漿(放射線照射)-LR	男	40	糖尿病	C型肝炎	07/03 07/03-04	HCV-Ab(-) (07/03) HCV-RNA(+) (07/03) HCV-Ab(-) (07/03)	HCV-Ab(+) (07/04) HCV-RNA(+) (07/05) HCV-Ab(+) (07/05)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管抗体12本全て HCV-RNA(-) (07/03)	クワック0/3 8/07/03 7/07/03 (07/03)	8単位 16単位	0/12	9本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿-LR、4本の赤血球MAPを製造。原料血漿は5本確保済み。新鮮凍結血漿-LRは全て確保済み。	原料血漿は4本使用済み。赤血球MAPは全て医療機関へ供給済み。	重篤	軽快		
3-07055	A-07000032	2007/5/28	2007/6/6	人血球濃厚液 人血球濃厚液-LR 人血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	70	多発性骨髄腫	C型肝炎	07/01 07/02-04 07/03	HCV-Ab(-) (05/09) HCVコア抗原(-) (06/12) HCV-Ab(-) (07/01) HCVコア抗原(-) (07/01)	HCV-Ab(-) (07/04) HCVコア抗原(+) (07/04) HCV-Ab(-) (07/05) HCV-RNA(-) (07/05) HCV-Ab(-) (07/05)	陰性(輸血後)	保管抗体11本全て HCV-RNA(-) (07/05)		4単位 14単位 4単位	2/11 (HCV関連検査陰性)	10本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は全て確保済み。新鮮凍結血漿-LRは確保済み。		重篤	未回復		

輸血による細菌等感染報告例(疑い例を含む。)

3-07042	A-07000008	2007/4/2	2007/4/13	人血球濃厚液(放射線照射) (採血8日目)	男	80	肝疾患、消化器疾患、心不全	細菌感染	07/01	-	-	院内血培は未実施。	非溶血性副作用関連検査 ・抗血漿タンパク質抗体検査:陰性 ・血漿タンパク質抗体検査:欠損なし	同一採血番号の血漿(1本)で無菌試験を実施。無菌試験結果:適合	本症例は、1/19に副作用名「全身発熱、嘔吐、発熱、全身チアノーゼ、呼吸促進」として情報を入力し、副作用未完了報告を行ったものである。しかしその後、担当医から輸血を通じての細菌感染の確認を希望され、細菌感染疑いとして追加調査を行った。副作用報告を取り下げ、感染症報告として報告する。 被疑薬:採血8日目の照射赤血球MAP(1本)	2単位	-	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。		重篤	軽快		
3-07045	A-07000011	2007/4/9	2007/4/20	人血球濃厚液(放射線照射)-LR(採血後10日目、8日目、7日目、6日目) 新鮮凍結人血漿(採血後282日目、275日目)	男	70	脳出血	細菌感染	07/03 07/03	-	-	院内血培は陰性。	非溶血性副作用関連検査 ・抗血漿タンパク質抗体検査:陰性 ・血漿タンパク質抗体検査:欠損なし	(1)照射濃厚赤血球-LRの同一採血番号の血漿(6本)で細菌関連試験を実施。結果:6本全て適合。 2)エンドキシン試験結果:6本全て基準以下。 (2)新鮮凍結血漿の同一採血番号の血漿(3本)は使用済みであり、細菌関連検査を実施できなかった。	採血結果を受けて、担当医より「集中にイベントが発生した可能性があったため、採血を原因として考えた。術前よりエンドキシンが上昇しており、手術前から敗血症性ショックの疑いとなる感染があった可能性があるので敗血症性ショックの疑いと輸血血液との因果関係なしと考える。また、血圧低下、アシドーシスについては免疫学的なものが関与した可能性は否定できないことから採血血液との因果関係は不明」との見解が得られた。	12単位 6単位	-	9本の原料血漿、3本の赤血球製剤を製造。原料血漿は6本確保済み。	原料血漿は3本使用済み。赤血球製剤は全て医療機関へ供給済み。	重篤	死亡(敗血症性ショックにより死亡。担当医の見解として、輸血との因果関係は不明。)		